



豚舎火災を防ぐ！ 本格的な冬を迎える前にスタッフ一丸となって 火災対策に取り組みましょう！

豚舎での火災は、大きな喪失感を伴う甚大な経済的被害を引き起こします。大変痛ましいことですが、毎年のように豚舎火災が発生していることも事実です。さらに空気の乾燥する冬場は、リスクがより高まると考えられます。リスクを完全に無くすことはできませんが、今回は火災を防ぐための基本的な対策を紹介します。 養豚研究室

過去の火災発生事例

2021年から24年に報道された、豚舎における火災発生事例を表1にまとめました。いずれのケースも被害が甚大であることが確認できます。また季節と地域を問わず発生していますが、10月から3月にかけての半年間において特に多いようです。これは、暖房器具を使用する季節であることに加え、空気が乾燥していることが影響していると考えられます。そのため、これからの季節は火災対策

により一層力を入れる必要があると言えます。

主な火災発生要因と対策

主な火災発生要因とその対策ポイントを下記および表2にまとめました。

①暖房器具

暖房器具（ヒーター）は主要な出火要因の一つです。ガスブレンダー、コルツヒーターをはじめとした各種ヒーターの使用に際しては、可燃物への引火を防ぐことが大切です。特に、昨冬以来使用し

ていなかったヒーターなどは、機器の状態をよく確認してから使用しましょう（写真1）。

②電気配線

電気系統の配線にも注意が必要です。前述の火災発生事例の中には漏電やトラッキング現象*により出火したと考えられるケースもありました。普段の作業で見慣れてしまい問題点に気が付きにくい可能性がありますので、改めて表2のポイントを見直してみましょう。いずれも漏電とトラッキング現象を避けることが重要です。また配線を屋根裏など普段目につきにくいところに通している場合、気付かないうちに配線が劣化している可能性があります。月に1度程度は点検、確認することがベターです。

※トラッキング現象（写真2、3）

コンセントとプラグの間に^{じんあい}塵埃がたまり、そこに湿気が加わることで電極間がショートし発熱・発火する現象。漏電とは異なるため漏電ブレーカーは作動しない。

③ネズミによる配線への食害

ネズミによる配線への食害は漏電につながり、火災発生の要因となることがあります。特に冬場の豚舎は暖かく、餌



写真1 埃をかぶった暖房器具



写真2 外れかかったプラグ



写真3 目につきにくい位置にある蜘蛛の巣が張った配線

も豊富にあるためネズミの侵入が増えることが考えられます。

また当然ネズミは衛生面においても好ましくありません。改めて、表2記載の項目をはじめとした対策を徹底しましょう。また、ネズミ対策については『ちくさんクラブ21』22年10月号で紹介しているので、こちらも参考にしてください。

教えて！中研（養豚）
豚舎内におけるネズミ対策
『ちくさんクラブ21』
22年10月号

設備による対策

火災対策として比較的導入しやすいと考えられる設備を表3に記載しました。可能な範囲で導入を検討してください。

以上、豚舎火災の基本的対策を紹介しました。最も大切なことは、スタッフ一人一人が防災意識を高めて業務にあたることだと思います。本格的な冬を迎える前に、スタッフ一丸となって火災対策に取り組みましょう！

表2 主な火災発生要因とその対策ポイント

① 暖房器具	
<input type="checkbox"/>	使用前に埃を掃除する
<input type="checkbox"/>	周囲に燃えやすいものを置かない
<input type="checkbox"/>	吊り下げ器具の劣化（さびなど）の有無を確認する
<input type="checkbox"/>	ガス管の劣化（硬化、穴あきなど）の有無を確認する
<input type="checkbox"/>	器具を豚が触れられる高さに設置しない
② 電気配線	
<input type="checkbox"/>	タコ足配線は避ける
<input type="checkbox"/>	コンセントにプラグをしっかりと差し込む（外れかかったままにしない）
<input type="checkbox"/>	使わない製品のプラグはコンセントから外す
<input type="checkbox"/>	痛んだり破損したりしたコードは使用しない
<input type="checkbox"/>	洗浄作業等で水を使用する場合、電気系統が水濡れしないよう考慮する
③ ネズミによる配線への食害	
<input type="checkbox"/>	ネズミの隠れ場所を無くするため、作業場を整理整頓する
<input type="checkbox"/>	豚舎への侵入経路（壁の穴等）を修復する
<input type="checkbox"/>	ネズミの隠れ場所となる豚舎周りの雑草を刈る
<input type="checkbox"/>	ラットサイン（糞などのネズミの痕跡）を確認し、適切な場所に捕獲罠を設置する

※ 当然、これらの項目がすべてではないですが、代表的なものを取り上げました

表3 火災対策で比較的導入しやすい設備

設備	特徴・確認事項
防水LED蛍光灯	洗浄作業などによる水濡れが原因の漏電を防止
コンセントキャップ	使用していないコンセントへの塵埃の蓄積を防止し、トラッキング現象を回避
消火器、 火災報知器（消防用設備）	消火器は設置台数が適切か、定期点検が実施できているかを確認 畜舎への火災報知器の設置は原則不要とされているが、執務室または保管庫の規模が一定以上の場合設置が必要となる (参考: https://www.fdma.go.jp/mission/prevention/items/prevention001_21_chikusya.pdf)

表1 過去の火災発生事例(2021年1月～24年3月、インターネット調べ)

年	月	地域	被害頭数	建物被害
2021	1	北海道	2800頭(子豚)	豚舎1棟
	3	青森県	200頭(子豚)	不明
	5	栃木県	6000頭(子豚)	豚舎6棟全焼
	9	群馬県	1040頭	豚舎1棟全焼
	10	宮城県	1300頭	豚舎1棟全焼
2022	11	岩手県	3200頭	豚舎2棟全焼
	2	宮崎県	2500頭	不明
	3	岩手県	7700頭	豚舎5棟全焼
2023	3	千葉県	800頭	豚舎1棟全焼
	7	栃木県	1300頭	豚舎1棟全焼
	7	千葉県	不明	豚舎2棟全焼
2024	12	新潟県	1600頭	豚舎3棟全焼
	2	新潟県	2850頭	豚舎1棟分と渡り廊下の一部
	3	鹿児島県	750頭	豚舎2棟、餌タンク5基全焼